

「パフュームを注いだら」 マタイ 26：6～13

I 導入部

おはようございます。2月の第三日曜日を迎えました。今日も愛する皆さんと共に礼拝をささげることができますことを感謝します。先週の2月14日からレント（受難節）、イエス・キリスト様の苦しみを思う季節が始まりました。4月1日のイースターまでの日曜日を除く40日間をイエス様の十字架の苦しみを思いめぐらして生活していきます。日曜日は、イエス様が復活された日なので、日曜日は除かれての40日間となります。

昨日は、平昌オリンピックで、フィギアスケート男子で、羽生選手が金メダル、宇野選手が銀メダルを取り、日本中に勇気と感動を与えてくれました。また高梨沙羅選手は、銅メダルとがんばりました。銅という漢字は、金と同じと書きますから、よくがんばりました。彼女は、旭川ナザレン教会のグレートマウンテンの卒業生でしたので、聖書を読んだり、神様の話も聞いていたのだと思います。また、将棋の藤井五段は、準決勝で羽生（はぶ）竜王に勝ち、決勝では、広瀬八段に勝って優勝し、六段となりました。すごいですね。中学三年生です。これからも期待されますね。

今日は、中高生の皆さんと共に礼拝をささげております。今日の説教題は、「**パフュームを注いだら**」という題です。「**パフューム**」と聞くと、中高生の皆さんは、3人のグループのテクノポップ・ユニットのパフュームが思い浮かぶのでしょうか。のっちこと、大本綾乃さん、かしゆかこと、樫野有香さん、あ～ちゃんこと、西脇綾香さんの3人です。それはどうでもいいのですけれども、パフュームというのは、香水、香油という意味があります。今日の箇所では、香油がイエス様の頭に注がれました。英語の聖書には、この perhume という言葉が使われています。今日は、マタイによる福音書26章6節から13節を通して、「**パフュームを注いだら**」という題でお話しします。

II 本論部

一、私たちの思いや行動を理解して下さるイエス様

今日の出来事はベタニヤという場所でのことです。ベタニヤはイエス様が特に故意にしていたマルタとマリア、ラザロが住んでいた場所です。イエス様は、彼らの家にはよく訪問されたようです。今日は、重い皮膚病人のシモンという人の出来事です。一人の女性が、極めて高価な香油の入った石膏の壺持って来て、イエス様の頭に注ぎかけたというのです。

女性にとっては、香水や香油というのは大切なものでしょう。特にイスラエルの女性にとっては、香油はとても大切な存在だったようです。日本は、雨が多くて、毎日のように風呂に入りますが、イスラエル地方ではそうはいかない。日本人のように、毎日のように

風呂には入れないでしょう。ですから、そんなに頻繁に風呂に入ったりシャワーを浴びたりできない女性たちは、体臭を消すために香油はなくてはならない大切な存在だったのです。ですから、極めて、高価な香油をイエス様の頭に注ぎかけたということは、すごいことなのです。同じ平行箇所のマルコによる福音書14章では、「**純粹で非常に高価なナルドの香油**」と説明しています。平行箇所と思われるヨハネによる福音書12章では、1リトラ(326g)持ってきたとあります。高価なものですから、少しずつ使用するのが通常でしょう。なのに、この女性は、とても貴重な香油を326g全部、イエス様の頭に注ぎかけたのです。ヨハネによる福音書では、「**家は香油の香りでいっぱいになった。**」(ヨハネ12:3)とあります。このような貴重な香油ですから、少しでも良い香りがしたでしょう。326gですから、飲料水でも300gもあれば、相当です。それが、イエス様の頭に注がれたのですから、目立ったでしょう。イエス様の弟子たちは、それをすぐそばで見えていたのです。8節には、弟子たちが憤慨して、「**なぜ、こんな無駄遣いをするのか。**」と言ったことが記されています。2017年新改訳聖書や口語訳聖書では、「**何のために、こんな無駄遣いをするのか。**」とあります。リビングバイブルでは、「**なんてもったいないことを!**」とあります。弟子たちは、この女性の行為、イエス様の頭に極めて高価なナルドの香油を326g注いだことを問題にしたのです。無駄だ。もったいない。無駄遣いだと。

彼女にとっては、イエス様の頭に高価な香油を注いだことは、何ももったいないことではない。無駄遣いでもない。彼女としては、自分にできる精一杯のことをしたのだと思うのです。彼女がイエス様に罪を赦していただいたのか。癒していただいたのか。その理由を聖書はしるしていません。けれども、彼女はイエス様に対して心からささげたのです。

弟子たちは、彼女がイエス様の頭に注いだ香油はあまりにも高価だったので、それを売って、お金にして、貧しい人々に施すことができるのにと言いました。それは、もっともな理由です。間違いはありません。しかし、それは彼女の思いを何も理解しない者の言葉でした。

私たちは、人がする行為に理解できないことがあります。納得できないことがあります。無駄に思えることがあります。無駄遣いだと感ずることがあります。そして、弟子たちのように、その人を批判したり、攻撃したりすることがあるでしょう。その人が、どのような思いで、どのような経験からその行為をしたのかを知らずして、知ろうとしないで見える行為だけで判断してしまふことがありますし、私たちがした行為に、そのように批判されたり、攻撃されたりすることがあります。しかし、イエス様は、人がどのように批判し、攻撃しようとも、理解しなくても、私たちの思いや行動を受け止め、理解し、祝福し、喜んで下さるのです。

二、時を知り、態度で示す

10節を共に読みましょう。「**イエスはこれを知って言われた。「なぜ、この人を困らせるのか。わたしに良いことをしてくれたのだ。」**」弟子たちは、彼女の行為を無駄な事、無駄遣い、とんでもないことだと責めました。けれども、イエス様は、彼女の行為に対して「**わたしに良いことをしてくれたのだ。**」と言われたのです。新改訳第三版では、「**わたしに**

対してりっぱなことをしてくれました。」とあります。彼女がした行為を二通りの見方があったということです。とんでもない事だという見方と立派な事だという見方です。常識から見て、この世の普通の考えでは、高価な香油を一度に注いでしまうということはおかしなこと、とんでもないことです。けれども、何事にも時というものがあります。

旧約聖書のコヘレトの言葉3章1節には、「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。」とあります。彼女は、普通なら、このような高価な香油を全て使い果たすということはしなかったのかも知れませんが、イエス様の十字架刑が近づいている時でした。そのことがわかっていたのかどうかはわかりませんが、彼女はこの時とばかり、普段しないであろうことをこの時、何かを感じて、ささげること示されてささげたのです。

私達も、何かの決断をする時、とまどうことがあります。今すべきことか、後にするべきか。今語るべきか、語らないでいるべきか。多くの時間や才能、財をささげるべきかどうか。彼女も迷ったのかも知れませんが、極めて、高価な香油、純粋で非常に高価なナルドの香油です。ですから、それを少しだけ注いでも何も問題ありませんでした。その方が弟子たちにも憤慨されないし、責められることもなかったでしょう。おそらく人は、そんなにしなくても良いでしょう、と言うでしょう。少しだったら弟子たちも納得した。けれども、多くささげた。すべてをささげた所に憤慨や不満、攻撃がありました。

けれども、彼女は聖霊に導かれるように、わずかではなくて、少しではなくて、半分でもなくて、全ての香油をイエス様の頭に注ぎかけたのです。それが、彼女の思い、心でした。その心をイエス様は理解して下さいました。受け入れて下さいました。わかって下さったのです。喜んで下さったのです。そして、言われました。皆さんと共に12節を読みましょう。「この人はわたしの体に香油を注いで、わたしを葬る準備をしてくれた。」すごい事を言われました。「わたしを葬る準備をしてくれた。」と。

イエス様は弟子たちには、ご自分の死の事、十字架の事を何度か話されました。けれども、彼らは、その話しを聞いても、聞かなかったことにしたのです。水に流してしまったのです。本気にせず、真剣に取り組もうとはしませんでした。ですから、弟子たちの中には、イエス様の死の備えは考えの中にはありませんでした。しかし、イエス様は、全人類の罪の身代わりに死ぬということが父なる神様のお心であり、ご自分の使命であることを理解されておりました。けれども、神であり人であるイエス様にとって、死ぬことは、死を経験することは苦しみでした。辛い事でした。逃げ出したい出来事でした。考えたくない事柄でした。そのようなイエス様のお苦しみをわかっているかのように、その事を察しているかのように、

彼女は極めて高価な香油をあふれんばかりに、おしみなく、イエス様に注いだのです。ささげたのです。イエス様はどんなにうれしかったでしょう。心が癒されたでしょう。ここに、私の苦しみや悲しみを理解してくれる人がいると感じたのかも知れませんが、彼女がイエス様の死の葬りのためだと意識して香油をささげたのかどうかはわかりませんが、イエス様は、彼女の心からの、精一杯の、時を知り、時を生かして、時を定めてささげた行為を

「この人はわたしの体に香油を注いで、わたしを葬る準備をしてくれた。」と言われたのです。イエス様ご自身のお心を支えた、励ました行為であると見て下さったのです。

三、私たちの行為が聖別されたものとなる

マルコによる福音書14章では、彼女の行為に対して「この人はできるかぎりのことをした。つまり、前もってわたしの体に香油を注ぎ、埋葬の準備をしてくれた。」(マルコ 14:8)とあります。実際、イエス様は、金曜日の午前9時から午後3時まで十字架につけられ死なれました。午後6時には当時の安息日が始まるというので、バタバタしたということもあつたでしょう。イエス様は、彼女の香油注ぎが、「埋葬の準備をしてくれた。」と言われたのです。タイムリーな、最も適切な、時にかなった行為だったと言われたのです。

ヨハネによる福音書12章7節には、「イエスは言われた。「この人のするままにさせておきなさい。わたしの葬りの日のために、それを取って置いたのだから。」」とあります。ヨハネによる福音書2章1節から11節には、カナの婚礼の記事があります。水が葡萄酒に変わり最高の葡萄酒がふるまわれた時、世話役は、「だれでも初めに良いぶどう酒を出し。酔いがまわったところに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」(ヨハネ 2:10) 良いぶどう酒が、今まで取り分けられていた、つまり、聖別されていたのです。

彼女が捧げた香油は、取って置かれたもの、イエス様にささげるために、特別に取り分けられていた、聖別されていたもの、それを彼女はイエス様にささげたのです。弟子たちは、彼女のささげた香油を無駄だとか無駄遣いだとか言って批判しました。けれども、イエス様は、ご自分の葬りのための準備であり、そのために聖別していたものだと評価して下さいました。

イエス様は、この記事の二日後には十字架につけられるのです。全人類の罪の身代わりの死の葬りの準備として、彼女は準備していた最高の香油をパフュームをささげたのでした。この時にしかできない時に、ふさわしい時に彼女は香油をささげたとイエス様が言われたのです。彼女は、このようにイエス様に極めて、高価な香油をささげました。イエス様は、最善の時、一番良い時に葬りの備えとしての香油をイエス様に注いだ彼女のために、彼女の最善の香油注ぎを無駄だと無駄遣いと批判した弟子たちのために、そして、私たちのためにイエス様は十字架に身代わりにかかり、尊い血潮を最後の一滴まで流し、その命を犠牲にして下さり、尊い命をささげて下さり、死んで下さいました。その流された血潮とそのささげられた命、イエス様の死を見て、私たちの全ての罪が完全に赦されたのです。そして、イエス様が墓に葬られ、死んで三日目によみがえられたので、私たちの救いが完成し、神様の前に義と認められ、私たちに死んでも生きる命、永遠の命が与えられたのです。イエス様は、私たちの過去、現在、未来の罪を赦すために、魂を救うために、私たちを義とするために、私たちに永遠の命を与えるために十字架にかかり死んでよみがえられたのです。イエス様こそ、私たち全人類のために聖別されたお方、十字架にかかり、死んでよみがえるために、神であるお方が人として、人間の世界に来て下さったのです。

私たちは、イエス様ご自身が私たちのためにご自身をささげられたことを知り、イエス

様に感謝して、私たちの与えられたものを精一杯おささげしたいと思うのです。人が何と言おうと、批判しようと、イエス様は私たちの心からの、精一杯のささげものを喜んで受け入れ、祝福し、感謝して下さるのです。

Ⅲ 結論部

私たちはレント、受難節を迎えています。私たちには苦しい事や悲しい事があります。病気を通して死の恐怖やどうにもならない現実を体験します。イエス様は神様であるにもかかわらず、人として死の恐れを経験し、死を迎えるということがどんな辛い事かを経験して下さいました。私たちが死という恐れを経験する時、イエス様はその苦しみやせつなさ、辛さをわかっていて下さるのです。理解して下さいるのです。イエス様は、私たちが経験する悲しみや苦しいを経験して下ったのです。だから、イエス様は私たちを理解し、私たちに寄り添い、私たちに慰め、励まして下さるのです。私たちは、現実には苦しい事や悲しい事、痛い事、辛い事を経験します。けれども、イエス様は、そのことを知り、私たちを助けて下さるのです。

イエス様に香油を注いだ女性は、イエス様の死の備えだとか葬りのためということとは全くわかっていなかったかも知れません。しかし、彼女の与えられたものを精一杯、自分のできる時に、時を定めて、精一杯のささげものをした結果、イエス様の死の前にささげられたものとして、イエス様の死の備えとして、イエス様にとっても、喜びであり、励ましであり、勇気を与えるものとなったのです。私たちは、聖霊が私たちの心に、思いに働かれる時、勇気を持って前進したいと思うのです。神様のために、教会のために、人々のために、喜んで与えられたものをささげたいと思うのです。あなたにとって、この時が、その捧げる時ではないでしょうか。

私たちは、この週も、聖書の言葉と聖霊の導きの中で、受難節を迎えて、苦しみや悲しみ、絶望を経験する時、困難な状況を経験する時、寂しさや悲しみを経験する時、イエス様の十字架の苦しみに預かることができたことを思い、聖霊の導きに従いながら、この週も歩んでまいりましょう。